

## 平成31年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞(開発部門)を受賞



受賞者左から新里 忠史、鶴田 忠彦、飯島 和毅、北村 哲浩、操上 広志の各氏

福島研究開発部門 福島環境安全センターの飯島副センター長らは、平成 31 年 4 月 17 日(水)に文部科学省において、「福島復興のための環境中の放射性セシウム動態評価手法の開発」の業績により、平成 31 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞(開発部門)を受賞しました。

福島第一原子力発電所事故後、避難解除にむけて生活圏の除染が行われてきたが、大部分の森林は生活圏となっておらず、未除染のままである。このため未除染の森林から放射性セシウムが移動し生活に影響を及ぼすことが懸念され、福島県の復興阻害の一因と考えられていた。

本開発では、福島県浜通りの 8 河川水系を対象とし、水源となる森林から河口域まで、様々な環境中の放射性セシウム濃度データを取得し、それらを表現する移動・堆積挙動予測解析を実施し、水系全体における放射性セシウムの移動・堆積挙動を定量的に評価した。

本開発により、森林から河川水系への懸濁態の年間流出量は樹種や傾斜によらず初期沈着量の 0.数%程度と極めて少ないこと、溶存態は地下水が湧水点から森林表土を流出する過程で水に溶出していること、ダムのある河川では懸濁態の移動は大幅に抑制されることなど、河川水系全体での放射性セシウムの移動・堆積挙動の支配因子を明らかにした。

本成果は、復興の進展に合わせて自治体や国等の関係機関に取りまとめて提供しており、避難指示解除の判断根拠や、農林水産業の復興計画策定のための基盤情報に寄与している、との理由により受賞いたしました。